

弁護士1年目を振り返って

会員 渡邊 雄太

1 はじめに

私は、昨年4月21日に弁護士登録をした。なんとか弁護士として1年目を終えることができたことにまずはほっとしている。以下において、弁護士1年目の生活や今後の抱負について述べたい。

2 1年目の弁護士生活

(1) 日々の業務について

弁護士1年目の生活は想像以上にわからないことだらけであった。

私が主に担当してきた業務は、訴訟、M&A、破産管財事件等幅広いものであった。これまで、司法試験、司法修習と法律について勉強してきたつもりではあったが、案件のクロージングのためには、具体的にどのような行動をすべきか落としこめるレベルまでにリサーチをする必要があり、これまで習得してきた知識のみでは全く通用しなかった。

(2) 1年目で感じたこと

上記のように幅広い業務を担当したが、その中で感じたのは、弁護士は人生を左右する決断を助ける仕事なのであるということであった。

依頼者が個人の場合はもちろん、依頼者が会社の場合でも、そのことを強く感じた。司法試験や司法修習までは、会社は、事業を行うための道具に過ぎないものであると考えていた。しかし、業務を行っている中で様々な会社の代表者の話を聞くことができた。特に破産管財事件において破産申立てをした代表者にお話を伺った際、涙を浮かべながら破産に至った経緯について話していただいた。彼らにとって会社も人生をかけたかけがえのないものであったことを強く認識した出来事であった。

3 弁護士業務以外で取り組んでいたこと

(1) 委員会活動

私は、東京弁護士会の公益活動として、法教育委員会に参加した。

私が主に参加したのは、中学生及び高校生の裁判傍聴プログラムや模擬裁判プログラムであった。上記プログラムに参加した中学生及び高校生には、プログラムについて活発に質問や意見を出していただいた。それだけにとどまらず、プログラムに参加して、法曹になりたいと言ってくれた学生もいた。

委員会活動自体は、弁護士業務に直結するものではないと思う。しかし、弁護士だからこそ社会に対して伝えられることがあると思っている。東京弁護士会の会務活動としてのみとらえるのではなく、社会に貢献できる活動として取り組んでいきたいと考えている。

(2) 趣味等

弁護士になってからは、日中座っていることも多く、ストレスがたまるが多かったため、スポーツジムに通うようにしたり、東京三会の弁護士の野球チームである東京ローヤーズに参加する等休日にはできるだけ身体を動かしたりすることを意識していた。現在は、週末に何とか行くことができる程度であるが、野球のピッチングにも生かすために筋トレは重視していきたい。

4 2年目に向けて

以上のように私の1年目の弁護士生活について述べてきたが、今後は自分になりたい弁護士像を考えながら過ごしていきたい。研修に参加する等法分野について研鑽を積むことにより弁護士としての力をつけるとともに人間としても成長していけるように努力を続けていきたい。